

明日からの診療にきっと役立つ！ 医学のトリビア エビデンスに基づく患者さんからの シンプルな質問への答え方

上田剛士・著

【評者】 徳田安春（群星沖縄臨床研修センター長）

辞書を引くとトリビア(trivia)とは、「雑学的な知識や豆知識」という。語源はラテン語の「三叉路」らしい。古代ローマの三叉路が多かったことから「ありふれた場所」から転じて「些細なこと」を表すようになったとのこと。

思い出すと、2002年のテレビ番組『トリビアの泉』では雑学的な知識を楽しく紹介していた。トリビアは「知っている面白い雑学や豆知識のこと」の認識が広まった。

しかし、本書は、医学に関係する面白い雑学や豆知識をサクッと入手できるだけではない。評者も、患者さんから一度は聞かれたことがある質問で、自分が答えることができなかった知識を知ることができた。

質問に正確かつ丁寧に答えることができる医師に対して患者さんの信頼は厚くなる。厚い信頼はアドヒアランスの向上につながり、アウトカムを改善する。口コミは広がり、患者さんは増えていく。患者から選ばれる医師の幸福度も増すというわけだ。

本書で取り上げる質問への回答知識はシンプルだが、元データの研究論文についてのエビデンスベースを批判的に吟味した上でのものだ。内科診断リファレンスでおなじみの「上田式 EBM」による医学トリビアである。最も信頼できるリソースだ。さすがの AI でも勝てないだろう。この点

A5判・304頁
2025年4月
定価：3,080円
(本体2,800円+税10%)
ISBN978-4-260-05774-5
医学書院 刊



に関心のある読者は、実際に AI でも検索して比較してみるとよい。

医師だけでなく、患者さんと接することのある医療関係者にも広くお薦めしたい。患者さんとのコミュニケーションが円滑になり、患者満足度が高くなるだろう。トリビアを医療現場での話題にすることで、患者さんの受診経験を豊かにすることができる。

医学トリビアは、患者さんとの信頼関係を構築するだけでなく、医療従事者の知識欲を満たし、日常業務へのモチベーションを高める効果も期待できる。さらに、医療現場でのトリビアを活用した会話は、患者さんに安心感を与える重要な役割を果たす。例えば、複雑な診断や治療プロセスをわかりやすく解説する際、トリビアを挟むことで患者さんに親しみやすさを感じてもらい、心理的なハードルを下げることができる。

また、トリビアが広がることで医療従事者間の学術的な交流が促進され、さらなる知識の共有や革新的なケア方法の発展にもつながるだろう。トリビアは医学の実践だけでなく、職場環境や患者体験にポジティブな影響をもたらす素晴らしい要素である。今後は、医療者と患者さん自身とのケア連携がより深まり、医療の質も向上するエビデンスがトリビアとしても出てくることを期待したい。